



ナシ特報

No. 1

平成 26 年 3 月 20 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市ナシ部会

3 月上中旬は真冬並みの寒波が入り、気温帯が平年より低く推移した影響もあり、ナシ類の発芽は昨年より遅れると予想されます。ただし、発芽・展葉等の初期の生育は、気温の上昇や降水量により大きく前後しますので、生育状況をよく確認し適期作業と防除に努めてください。尚、休眠期防除のポイントは下記をお読みください。

◆ 南水発芽調査（調査地点：田麦）

年度	平年	H23	H24	H25
発芽期	4/8	4/16	4/15	4/5

1、和梨 発芽前の散布（石灰硫黄合剤体系とキノンドーフロアブル体系を記載しています。下記をよく読み、いずれかを選択してください。）

～キノンドーフロアブル体系～

散布時期：発芽直前（3 月下旬）

散布薬剤：水 98 リットル
キノンドーフロアブル 100ml
スプレーオイル 2 リットル

対象病虫害：ハダニ類、カイガラムシ類他

散布量：10a 当り 300 リットル

散布日	月	日
散布量		リットル

◆ キノンドーフロアブル体系注意事項

- ① 温暖・無風の時に散布する。
- ② せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペーストを塗る。
- ③ 混用順は、キノンドーフロアブルにスプレーオイルを加用し、よく攪拌すること。
- ④ 近年カイガラムシ類の発生が目立つ園は、この散布の前に金ブラシ等で削り落しましょう。

～石灰硫黄合剤体系～

散布時期：発芽直前（3 月下旬）

散布薬剤：水 88 リットル
スプレーオイル 2 リットル
石灰硫黄合剤 10 リットル

対象病虫害：ハダニ類、カイガラムシ類他

散布量：10a 当り 300 リットル

散布日	月	日
散布量		リットル

◆ 石灰硫黄合剤注意事項

- ① 温暖・無風の時に散布する。
- ② せん定の切り口（傷跡）には必ずトップジンMペーストを塗る。
- ③ 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極力かからないようにする。
- ④ 混用順は、スプレーオイルに石灰硫黄合剤を加用し、よく攪拌すること。
- ⑤ 近年カイガラムシ類の発生が目立つ園は、この散布の前に金ブラシ等で削り落しましょう。



発芽期
樹全体で紅葉後の緑
～30%の花芽の緑が
開れ、緑色が認めら
れる日。

2、和梨 発芽 7 日後の散布（りん片脱落直前）

散布時期：りん片脱落直前（4 月中旬）

散布薬剤：水 96.7 リットル
Ic ボルドー48Q 3.3kg

対象病虫害：（黒斑病）、黒星病

散布量：10a 当り 300 リットル

散布日	月	日
散布量		リットル

◆ 注意事項

- ① 散布時期が遅れたり、散布直後に降雨があると薬害を生じることがあるので注意する。
- ② 収穫中の作物への飛散に充分注意する



りん片脱落期
樹全体で紅葉後の緑
芽のりん片が30～50%
が脱落した日。

ラ・フランスの定期防除は裏面をご覧ください。

西洋梨

◆ ラ・フランス発芽調査（調査地点：田麦）

年 度	平 年	H 2 3	H 2 4	H 2 5
発 芽	4 / 7	4 / 1 5	4 / 1 3	4 / 4

◆ 西洋梨 発芽前の散布

トップジン M 水和剤体系と石灰硫黄合剤体系を記載しています。下記をよく読み、いずれかを選択して下さい。

～トップジンM水和剤 体系～

1. 散布時期：発芽前（3 月下旬）

2. 散布薬剤：水 98 リットル
展着剤 10ml
トップジンM水和剤 100 g
スプレーオイル 2 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病、黒星病、胴枯病

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

散布日 月 日

散布量 リットル

◆ 注意事項

- ① 天気の良い温暖・無風の日を選び、幹・枝に丁寧にたっぷりと散布する。
- ② 薬剤の調合にあたっては、トップジン M 水和剤を先に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌する。

～石灰硫黄合剤 体系～

1. 散布時期：発芽前（3 月下旬）

2. 散布薬剤：水 88 リットル
スプレーオイル 2 リットル
石灰硫黄合剤 10 リットル

3. 対象病害虫：ハダニ類、カイガラムシ類
腐らん病、黒星病、胴枯病

4. 散布量：10a 当り 300 リットル

散布日 月 日

散布量 リットル

◆ 注意事項

- ① 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールには極力かからないようにする。
- ② 天気の良い温暖・無風の日を選び、幹・枝に丁寧にたっぷりと散布する。
- ③ 薬剤の調合にあたっては、スプレーオイルを先に水に溶かし、石灰硫黄合剤を後から加えて、よく攪拌する。

◆ ナシ類共通休眠期耕種的防除及び3月下旬の重点作業のポイント

1. 粗皮けずり

輪紋病の源となるいぼ皮や粗皮（リンゴハダニ等の住处）を削り取ることで、休眠期防除効果が高まります。特に輪紋病の発生が多い園では、早い時期にいぼ皮削りを進めてください。

2. 腐らん病・凍害対策

剪定作業時に腐らん病斑を見つけた際は必ず削り取り、癒合剤を塗布しましょう。また、凍害（胴枯病・紫変色枝枯症他）防止のため、主幹部等にできた大きな切り口には必ず癒合剤を塗布しましょう。近年は、耐凍性低下後（3月下旬以降）の低温遭遇により凍害の発生が助長される傾向にあるので細心の注意を払いましょう。

3. 花芽整理（和梨）

南水の花芽過多が散見されます。剪定作業と並行して、花芽整理（芽すぐり）を積極的に行ってください。1 短果枝群につき 2 芽程度に整理し、芽の向きはなるべく外に広げるようにしましょう。（詳しくは講習会に参加してください。）

4. 枝の誘引

次年度の花芽形成促進や側枝の強樹勢化を防止するために、剪定作業と並行して誘引作業の必ず実施しましょう。特に樹が硬く折れやすい品種は、発芽期以降実施することが望ましい。（詳しくは講習会に参加してください。）

5. 苗木の植え付け

苗木植え付け時は、根と土が十分馴染むようにかん水を行い、支柱等を立てて風等による倒伏を予防する。併せて、敷きワラマルチ等をするとその後の乾燥防止に役立ちます。